

# 1. 想定項目

## 1.1 基本的な考え方

東海地震の被害想定結果に基づき、発生が予知された場合を含む地震発生後の災害の全体像を把握するため、各種の被害、対応・対策の実施、復旧過程等について時系列的にとりまとめた災害シナリオを作成した。

### 自然現象、物的被害等のシナリオ作成

地震動、液状化、斜面被害といった自然現象がどのように発生するのか、それによる建築物被害・火災被害はどの程度か等について震災時の被害様相を表現した。

### 機能支障シナリオの作成

大きくは以下の観点が含まれるようなシナリオ構成とした。

- a) 交通やライフラインの基盤機能支障シナリオ
- b) 避難や飲食、医療などの生活支障（短期）シナリオ
- c) 避難所・仮設住宅生活や衛生などの生活支障（中長期）シナリオ

### 対策シナリオの作成

の機能支障シナリオに対応した形で、県・市町村及び関係機関による時系列の対策シナリオ（現状の対策を考えて、今後どのような対策を充実する必要があるか）を作成した。

### 県民向けシナリオ

上記～は行政向けのシナリオであるが、より県内の被害様相をわかりやすく県民の視点で伝えられるような県民向けシナリオも作成した。古い木造住宅地にいた場合、観光地にいた場合、山間の集落地の場合等。

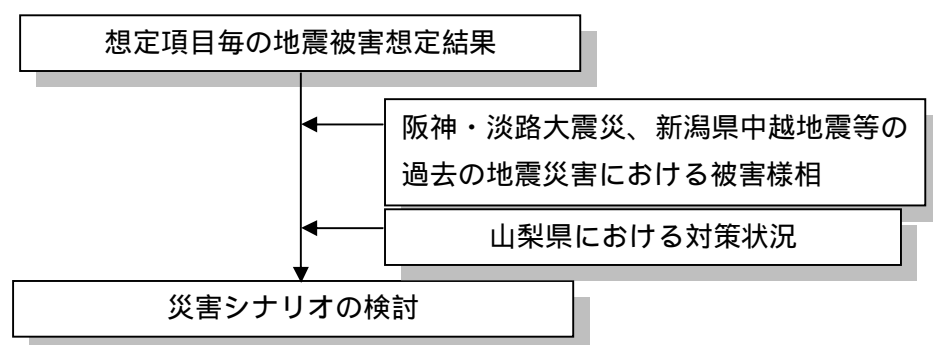


図 1-1 想定フロー

## 1.2 シナリオ想定の定義

本調査において実施するシナリオ想定は次の通りである。

県が実施する対策の検討に資することが第一の目的であるため、全県域における被害、対応の実施状況をマクロ的に想定した。

シナリオは、各被害の種別、それに対応した対策の課題について時系列に定性的に記述し、また需要量については可能な範囲で定量的に盛り込んだ。

## 1.3 シナリオ想定的位置づけ

シナリオ想定的位置づけは次表の通りである。

表 1-1 災害シナリオの位置づけ

	被害想定	災害シナリオ
検討対象	被害	被害 対応
検討内容	最大量 (定量)	時間的な変化 (定性 + 定量)
検討フェーズ	発災直後のある時点	発災直後～復旧
検討意義	被害の最大量を把握しカバーするための対策を検討することは、地震対策において最も重要な考え方の1つである。	時系列の変化の把握により地震対応計画の実効性検証や防災機関等の連携の検討が可能となる。

## 1.4 災害シナリオの概要

以下の観点から、災害時イマジネーション能力および実践行動力の向上に資する検討を実施した。

従来の被害想定においては、自然現象や物的・人的被害の定量的予測に主に力が注がれてきたが、本想定ではこれに加え、地震時にはどのような揺れが発生し、それによってどのような被害が発生し、どのような生活支障があるのか、また、行政はどのような対応が課題となるか等を検討する災害シナリオ(被害シナリオ/対応シナリオ)を検討した。

被害の状況によっては、現在実施されている地震防災対策では量的・質的に不十分と判断されるような被害量や被害要因が発生することが大いに想定されるが、この災害シナリオにおいてはそうした起こりうる事態や現状での対応の困難性等を認識し、今後の地震防災対策を具体的検討のための基礎資料とすることを目的としたものである。